

sMedio REPORT

Vol.10

第14期 株主通信 | 2020.1.1 → 2020.12.31



ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご支援とご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、「デジタルトランスフォーメーションを加速する。(ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面で良い方向に変化させる)」をミッションに掲げ、社業の発展に邁進しております。

2020年12月期業績は、売上高913百万円、営業利益32百万円、経常利益30百万円、最終利益10百万円となり、各段階利益で黒字化を達成しました。数年来の低迷した状況から回復しつつあるとはいえ、まだまだ、利益の額は小さく予断は許しませんが、ライセンス案件の積み上げとサービスビジネスの立ち上げも進んでおり、利益の質も良くなってまいりました。

事業面では、当社の成長事業である「パソコン向け・デジタル家

電向け組込みソフトウェア事業」と、「建設AI + IoT事業」において、多くのお客様に、当社製品・サービスをご採用頂ける機会に恵まれました。引き続き、この2つの事業分野に経営資源を集中して、ライセンス収入およびサービス収入を増やすことで、安定した収益基盤の構築を目指してまいります。

2021年12月期は、中長期での安定収益の確保を見据えた開発・営業面での投資と、単年度の収益とのバランスを図りながら、増益を達成できるように、社員一丸となり取り組んでまいりますので、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **岩本 定則**

about sMedio

社会に貢献できる豊かなマルチメディアライフを目指して

当社は、スピーディーに (Speed)、世界市場に向けて (Sphere)、ソフトウェア (Software) 製品とサービスを提供するソフトウェア開発、サービス提供会社です。

当社は2007年の設立以来、マルチメディア、無線接続技術関連ソフトウェアの開発力で高い評価を獲得しています。

近年、当社は「デジタルトランスフォーメーションの加速」をミッションとして掲げ、AI(人工知能)による映像解析、IoTプラットフォーム製品、セキュリティ関連技術に事業分野を広げ、ソフトウェアによる新たな価値の創造に取り組んでいます。

sMedio
の強み

1

Media
処理技術

2

無線通信
技術

3

著作権保護/
認証技術

4

AIによる
映像解析

新製品を開発・製品化するための全ての要素技術を習得しており、マルチOS・マルチデバイスに対応できることが当社の強みでもあり、他社にマネのできない先端的な製品開発の源泉となっています。

無線接続技術関連製品を使うとこのようなことが可能になります。

sMedioが目指すもの

技術開発力

明日をもっとコネクティブに。

インターネット化する社会。

その進化を、技術力とグローバルな展開力で加速する。

新しい魅力

お客様のために、というミッション。

そのデバイスに先進の機能を、新しい魅力を。

お客様のバリューを高める、
それが私たちのバリュー。

世界へ

アジアから世界へ。

人材や技術というリソースを、
国境を越えて結集し、革新的なソフトウェアを、いち早く世界へ。



このような技術の保有という強みを持っていることで無線接続技術関連製品を幅広く提供することが可能となりました。様々なシーンで当社技術や製品が使われています。

当社グループをもっと知っていただくために、株主の皆様の疑問にお答えします。

高解像度に対応した製品展開、

Q.1

2020年12月期の黒字化の要因を教えてください。

A

2020年12月期の黒字化は、①増収による効果と②原価低減・費用節減による効果の両方が要因であると考えています。結果、営業利益は、前期から94百万円改善し、32百万円となりました。

①増収による効果

数年来のロイヤリティ収入の底上げの取り組みの結果が出ましたが、為替の円高が進んだ1年でもあり、ロイヤリティ収入の伸びは15百万円(前期比+2.6%)でありました。

他方、受託開発では、主に、出荷後にロイヤリティ収入が期待できる案件を受託することにしており、2020年12月期は規模の大きな案件があったことで、受託開発収入の伸びは53百万円(前期比+24.5%)でありました。

結果、売上高は913百万円となり、その伸びは51百万円(前期比+6.0%)でありました。

②原価低減・費用節減による効果

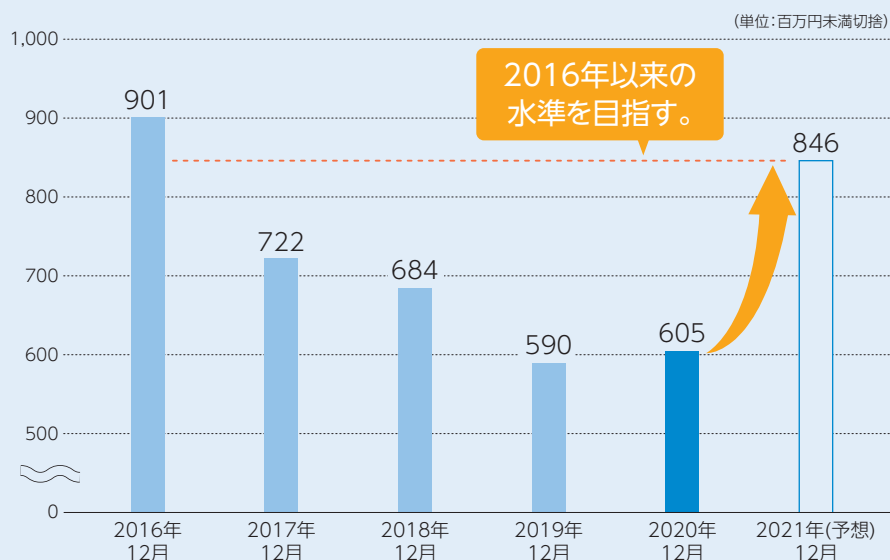
売上原価と販管費の合計金額は、924百万円から881百万円へ、42百万円減少(前期比△4.6%)しました。

売上原価の減少要因は、2019年12月期(前期)での開発負担の大きかった開発案件の反動減および2020年12月期には利益率の高い開発案件があったことで開発案件全体での採算性が向上したことに加え、サーバー費用等の見直しによる原価低減になります。

一方、販管費の減少要因は、新型コロナウイルス感染症拡大による出張自粛等の影響での減少と継続的な経費節減になります。

2021年は、回復してきたロイヤリティ収入による収益の積み上げをもとに、将来の収益に貢献する投資を行いつつ、増収増益を目指してまいります。

ロイヤリティ収入



2021年のロイヤリティ収入は、2020年実績比で240百万円の増加を見込み、2016年12月期以来の水準を目指しています。

建設業界向けのAI、IoTを活用した

Q.2

建設業界向けに提供しているAIサービスはどのようなものですか。

A

当社は、映像処理技術を基に、AIディープラーニング型映像・画像解析エンジンを開発し、IoT機器、エッジ端末、クラウドといった様々な機器で用いることのできるソリューションを、sMedio AI Technologiesとして提供して、その中でも、sMedio AI Technologies for Constructionを用意して、当社が注力しているのが、建設業界向けのソリューション提供になります。

建設現場における特定の課題を解決するためのソリューション提供を目指し、自社サービスの立ち上げ

を行っており、第1弾として、2020年4月より、切羽AI評価システムサービスを始め、このたび、第2弾として、2021年2月より、動体認識AI解析サービスを始めました。

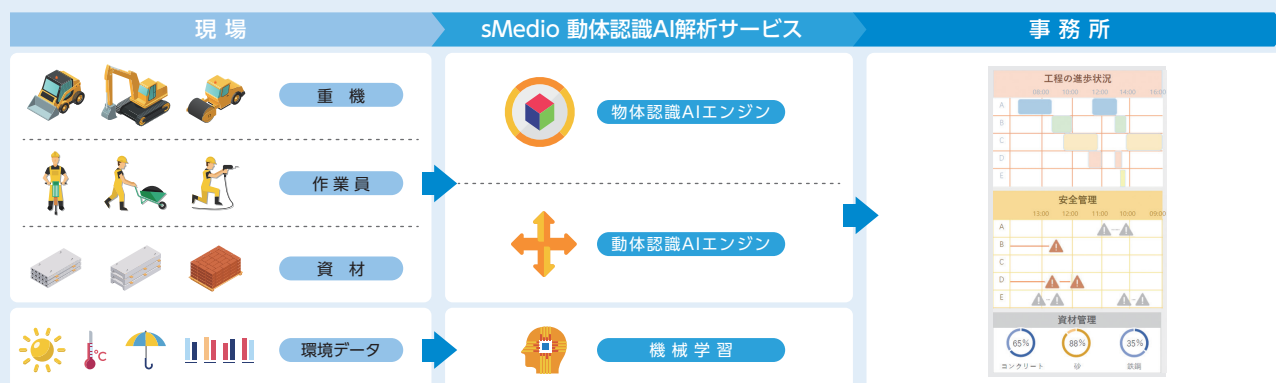
動体認識AI解析サービスは、AIで検出した物体の動きをもとに、建設現場での安全管理向上を図るツールとして利用されることに加え、工事工程の進捗状況の認識がしやすくなり、業務の効率化ツールとして利用されることを期待したサービスになります。

「動体認識AI解析サービス」概要

現場における人、物体（建築機械・機材・重機）などの認識と、それぞれの動きの認識を行い、その結果に基づく解析評価を提供。解析項目例として、

- ▶ 現場における機材の動きを検出し工程の進捗状況推定
- ▶ 使用資材のボリュームを推定
- ▶ 人の動きを検出することで現場の安全確認のアラート発信

2021年3月8日よりサービス開始



建設業界は、今後も労働者が不足する状況が続くと見込まれており、その解決策の1つとして、IT活用の推進が求められている業界になります。当社は、建設業界での様々な課題を解決するためのソリューション提供を今後も続けていきます。

2021年中には、第3弾として、コンクリート表層AI評価システムのサービスを始める準備をしております。

今後もサービスラインナップを増やし、建設現場へのソリューション提供を進めてまいります。

ソリューションを提供

Q.3

テレワーク・在宅勤務で盛り上がるデジタル家電市場への取り組みを教えてください。

A

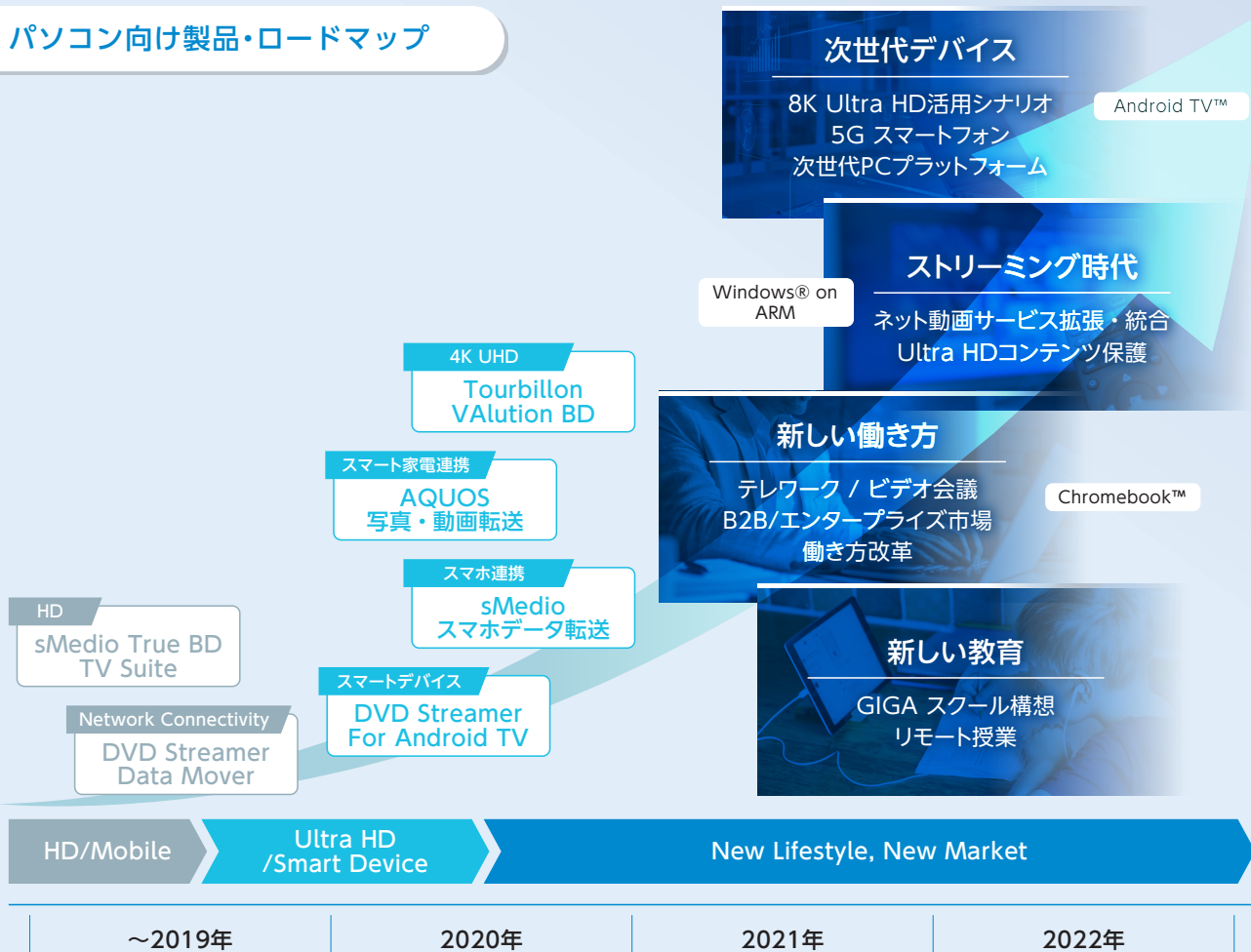
パソコン市場に対しては、当社ソフトウェア製品の採用数の拡大を目指し、テレビ市場に対しては、製品単価の上昇を目指していきます。

テレワーク・在宅勤務により、新たなパソコン需要が生まれ、パソコンが使われる時間も増加しました。当社は、映像再生・データ転送といったソフトウェア製品を有しており、テレワーク・在宅勤務、またGIGAスクール

構想でのニーズを捉えられるよう、パソコンメーカー様に訴求して、当社製品の搭載拡大を目指してまいります。

また、当社は、4K/8Kの高解像度のブラウザ表示技術を活かした製品群を有しており、ブラウザ表示技術で実現可能なことを増やすことで、主にテレビ向けに、製品単価の上昇を目指していきます。

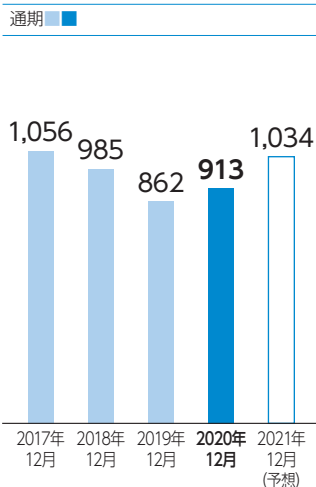
パソコン向け製品・ロードマップ



連結業績ハイライト

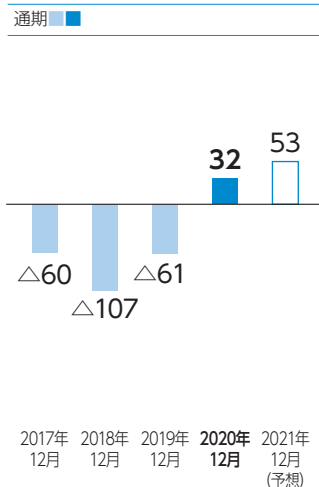
売上高

(単位:百万円)



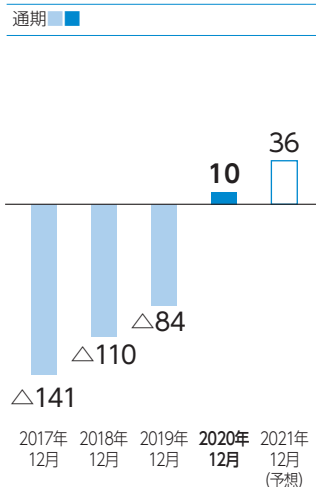
営業利益

(単位:百万円)



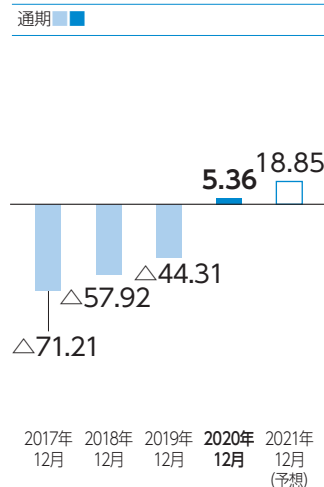
親会社株主に帰属する 当期純利益

(単位:百万円)



1株当たり当期純利益金額

(単位:円)



株主インフォメーション

会社の概要 (2020年12月31日現在)

社名	株式会社sMedio
本社所在地	〒104-0033 東京都中央区新川12-3-1 セントラルスクエア8階
設立	2007年3月16日
資本金	5億1,039万円
従業員数	57名 (役員含まず、子会社従業員含む)
役員	代表取締役社長 岩本 定則 取締役 北埜 弘剛 取締役 (独立社外) 落合 洋司 取締役 (独立社外) 林 志中 監査役 (常勤) (独立社外) 江藤 祐一郎 監査役 渡邊 雅文 監査役 (独立社外) 本郷 喜千
関連子会社等	sMedio Technology (Shanghai) Inc. (中国) sMedio America Inc. (米国) 株式会社情報スペース タオソフトウェア株式会社

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヶ月以内
配当支払株主確定日	12月31日 (期末配当) 6月30日 (中間配当)
1単元の株式数	100株
証券コード	3913
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告掲載方法	電子公告により行う。やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は日本経済新聞に掲載する方法により行う。

株式の状況 (2020年12月31日現在)

発行可能株式総数	6,000,000株
発行済株式の総数	2,040,121株 (うち自己株式 110,892株)
株主数	1,799名

IRカレンダー

2021年	4月	● 第1四半期決算発表
	5月	
	6月	
	7月	● 第2四半期決算発表
	8月	
	9月	
	10月	● 第3四半期決算発表
	11月	
	12月	
2022年	1月	● 決算発表
	2月	● 定時株主総会
	3月	

株式会社sMedio

<https://www.smedio.co.jp>

UD FONT



環境に配慮したFSC®認証紙と
植物油インキを使用しています。